

3 ロビン・フッド 誠のアウトロー

ロビン・フッドは緑の森の
剛胆なアウトロー
鳥や雄ジカ はたまた朝の空気より
気ままなアウトロー

送りこまれた二十人の敵は 5
大喜びでロビンの仲間になった
さらに送りこまれた三十人も
ロビンの一味に加わった

仲間うちでとりわけ屈強なのは 10
ガメリンの森で育った男たち
だが 生まれがどこであろうとも
今では みなロビンの仲間

ロクスリーの町には誰一人
ロビンを悪く言う者はいない
修道士たちは腹を立てても 15
手も足も出せなかった

ただし 修道院の大広間で宴を楽しむ
ごく一部の者は別である
だが やれやれ ロビンには分かっていた
昨日の敵が 誠の友になりうることを 20

たとえばロジャー修道士 かつては
修道院を享楽の園としていた
それからミッジ 今では
ロビンが全幅の信頼をおく男

この二人だけではない よく言うではないか 25
ああ この浮世の夢の中で
人はただ一つ心に抱いてきた誠を
捨てなければならない時があると

止めようもなく 人は力衰え
頬は瘦^こけてゆくもの 30
老いていく腰は
地面に向かって曲がりゆくもの

止めようもなく 目は霞み
万物の輝きを見ることもできなくなる
古くからの友であろうとも 35
どうして裏切らないと言えようか

だが 我らは誓う
偽りの世よ お前には加担しない
揺るぎない誠と仁義ある限り
我ら三人を引き裂くものはない 40

(宮原牧子訳)